

お 知 ら せ
令 和 2 年 4 月 22 日
気 象 研 究 所

北極海海氷の最新の将来予測研究に貢献しました

北極海の家氷面積は、夏になると減少し、冬になると再び増加します。この季節変動に加えて、地球温暖化の進行に伴い、北極海の家氷面積はここ数十年で急速に減少しており¹、北極海の家気候や生態系に大きな影響を与えていることが、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の報告書等で指摘されています。

地球温暖化の進行に伴う北極海の家氷域面積についての世界 21 の研究機関による予測結果が、ハンブルク大学の Dirk Notz 教授を中心にまとめられ、令和 2 年 4 月 17 日に国際誌 Geophysical Research Letters に発表されました^{2,3}。気象研究所も予測実験とデータ解析等に貢献しました。

この論文では、地球規模の二酸化炭素の排出を今後急激に削減し、世界平均した年平均気温の上昇を産業革命以前から 2℃以下に抑えたとしても、北極海で一時的に海氷がほとんどない状態になる（北極海の家氷域面積が 100 万平方キロメートルを下回る）夏が 2050 年までには出現しうると、多くの気候予測モデルが予測していることを示しています。

気象研究所では、引き続き、数値シミュレーション技術の高精度化に努め、地球温暖化対策に資する情報の発信を積極的に行っていきます。

¹https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/shindan/a_1/series_global/series_global.html

²<https://doi.org/10.1029/2019GL086749>

³<https://www.cen.uni-hamburg.de/en/about-cen/news/11-news-2020/2020-04-20-sea-ice-notz.html>

問い合わせ先：

気象庁気象研究所 全球大気海洋研究部 第四研究室 主任研究官 豊田

TEL：029-853-8661

気候・環境研究部 第四研究室長 辻野

TEL：029-853-8657